



四谷一丁目遺跡

いせきはっくつ 遺跡発掘だより その六

- 発掘調査を終了しました! -

2年間にわたる調査につきまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

江戸の町屋敷をまるごと発掘する、都内でも前例のない大規模な調査を通して、江戸城外堀の完成とともに現代の四谷の町の原形が誕生し、連綿といまに続く町の痕跡が地中に残されていたことがわかりました。

眠りからさめた江戸のまちは、どのような当時の町なみや暮らしぶりを私たちに伝えてくれるのか? 今後、整理・分析を通して明らかにしていきます。



発掘調査の成果は、平成31年度に報告書として刊行され、新宿歴史博物館などでご覧いただける予定です。お楽しみに!



なぜ!? 道端に掘られていたごみ穴
江戸時代の中ごろまでは、道端に地下室やごみ穴が築かれていました。

● 最古の迷子札!? 出土



【判読文】
四つ屋志ほつ者丁
なへ屋七郎右衛門
貞享貳年
丑五月吉日

江戸四谷塩町右衛門娘
鍋屋七郎右衛門
当五ツ
貞享貳年
卯年
五月

愛しいわが子が迷わぬよう、身に付けさせていた「迷子札」でしょうか。
貞享2年(1685年)の迷子札は、遺跡での出土例として最古と思われます。



江戸時代の水道(上水)
暗渠(地下トンネル)の木樋により、玉川上水から各家々まで水が導かれていました。

区道の下には昔の道路跡があった!

幕末から近代 (約150~200年前) 江戸時代前~中期 (約250~380年前)

